

コレクション変数: メモリ上のデータコレクション

GeneXus[™]

変数を定義して **1つの**エンティティを格納できる:

基本型の変数の例

&name → Character(20)

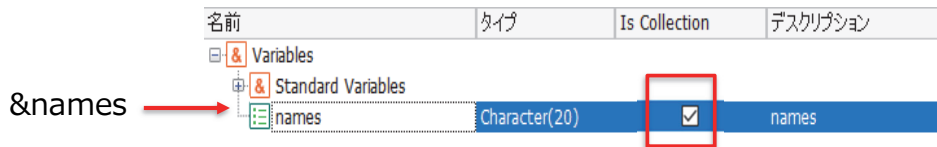
SDT型の変数の例

&OneCustomer →

名前	タイプ	デスクリプション
SDTCustomer		SDTCustomer
• ID	Id	ID
• Name	Name	Name
• Address	Address, GeneXus	Address

すべての GeneXus オブジェクトで、単純データ型または構造化データタイプに基づいて変数を定義し、数値、テキスト、国に関するデータなど、エンティティのデータを格納できます。

基本型の変数をコレクションとしてマークすることもできる:



コレクションは、要素のデータタイプに関わらず、似たような動作をする

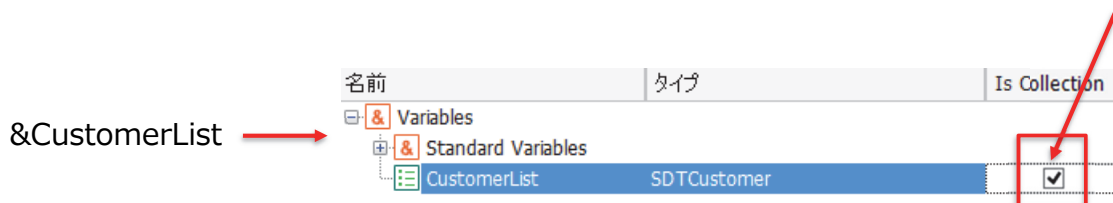


あるデータタイプで定義する変数は、そのタイプの要素のコレクションにすることもできます。

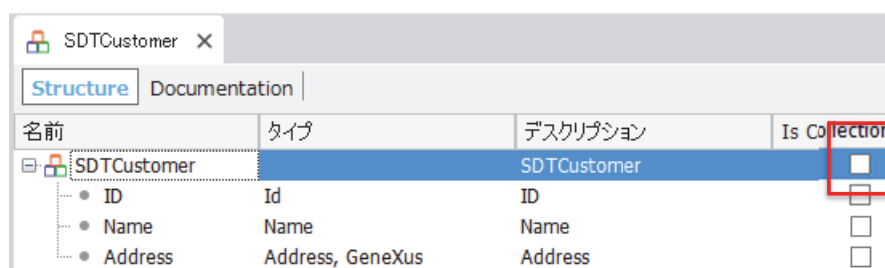
コレクションは、要素のデータタイプに関わらず、似たような動作をします。そして、開発者はこれらを容易に利用するための機能を必要とします。

そのような機能の一部は既に確認しました。コレクションを並べ替える Sort() や、対象を参照する For..in コマンドなどです。ここではそれ以外の機能を確認しましょう。

顧客のコレクションとして &CustomerList を作成する:



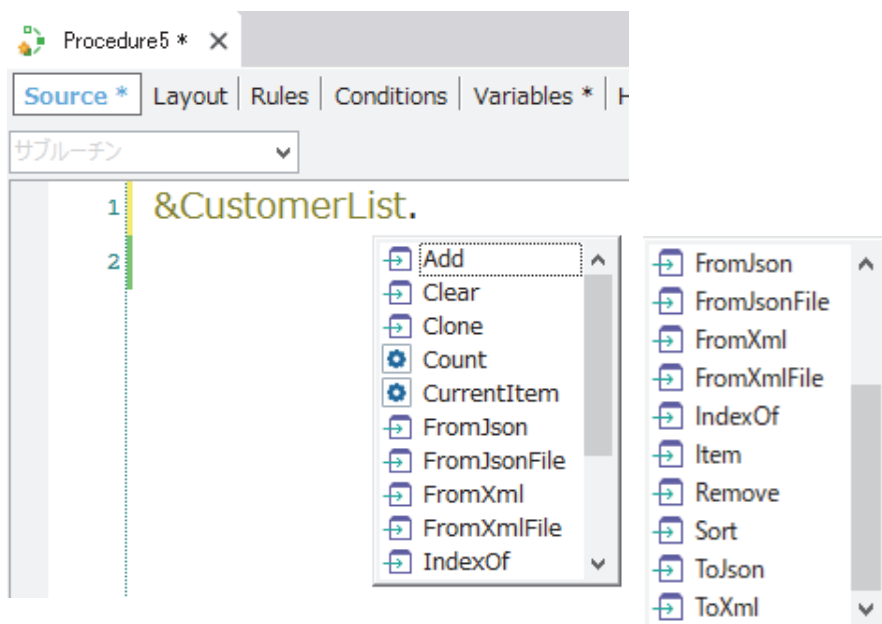
この変数のコレクション内の各要素は SDTCustomer タイプになる。



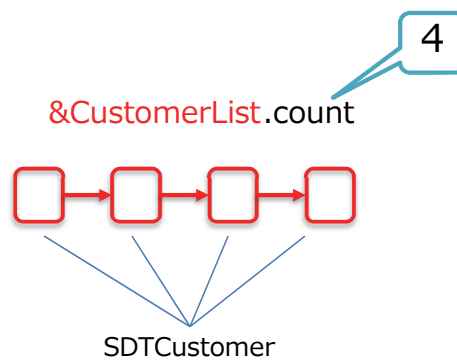
SDTCustomer タイプの &CustomerList 変数を定義し、[Is Collection] 列のチェックボックスでコレクションとしてマークします。

コレクション内の各要素が SDTCustomer タイプになります。この SDT はコレクションとして定義していないため、単一の国の情報のみを格納できます。ただし、このタイプの変数を定義してコレクションとしてマークすると、複数の国のデータを格納できます。

コレクションのプロパティとメソッド:



要素の数をカウントする:

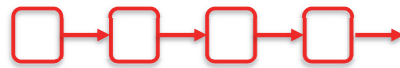


[Count] プロパティで、コレクション内の要素の数を確認できます。

このプロパティは読み取り専用です。

コレクションに要素を追加する:

& CustomerList.add(&OneCustomer)



&OneCustomer

add() メソッドで、コレクションに要素を追加できます。

追加する要素は、コレクション内のほかの要素と同じデータタイプである必要があります。

コレクションから要素を削除する:

```
&CustomerList .remove(3)
```



remove() メソッドで、指定したインデックスの要素を削除できます。

インデックスの範囲は 1 から [Count] プロパティの値までです。

コレクション内のすべての要素を削除する方法:

`&CustomerList.clear()`



コレクション内のすべての要素を削除する場合は、`clear()` メソッドを使用します。

詳細情報:

<http://wiki.genexus.jp/hwikibypageid.aspx?6352>